

【提案】中学校部会 分科会2

言葉のもつ力を大切にした推敲の実践～短歌から始まる物語において～

竹原市立忠海学園

1 はじめに

本校では、9年間を見通した義務教育学校ならではのつながりある学びを意識し、個々の児童・生徒が学びを楽しいと思える授業の実現を目指した研究を推進している。本提案では、国語科の「書くこと」における推敲の資質・能力を育成する実践を報告する。

2 研究の概要

(1) 研究仮説

① 推敲の指導において、物語の展開、情景描写や表現技法などの観点を設定し、ポイントをしぼって推敲を行えば、物語の構造を理解したり表現技法の効果的な使い方を身に付けたりできるようになるだろう。

(2) 研究内容(本年度の第8学年での短歌を用いた学習について)

① 5月の「短歌を楽しむ」では、五感に基づいて、視覚では色彩がわかる言葉をすべてあげる指導を行い、短歌の世界を想像しやすくさせた。

② 5月の「短歌の創作」では、韻にこだわった短歌を詠んだ。このことで、言葉ひとつでイメージや伝わり方が違うということを理解させた。

③ 7月の「短歌から始まる物語」では、物語の筋(プロット)を構想する際に「会話」、「心理描写」、「情景描写」、「表現技法」の項目ごとに色が異なる付箋に書き込み、文章を書くことを苦手とする生徒でもスムーズに書けるように支援を行いながら物語を書かせた。

3 実践例

第8学年 短歌から始まる物語—いきいきと描き出した作品を他校の生徒と交流する—

(1) 単元の概要

第1時 教科書に掲載されている短歌の中から自分の気に入ったものを一首選び、描かれている作品世界への想像を膨らませた。

第2時 「いつ」、「どこで」、「誰が」、「どうした」に分けて整理し、登場人物の人物像を考えた。

第3時 創作する物語について、付箋を用いて項目ごとに書く材料を整理し、物語の流れを決めた。

第4時 前時に準備した場面や人物像の文、描写を工夫して膨らませて書いたものを材料に物語を書いた。

第5時 物語を読み返して、よりいきいきとした表現にできるように語句と表現の意図を考えながら推敲した。

第6時 他校の生徒の物語を読んだり、自分の物語について意見を聞いたりして、今後の表現に生かしたいと思うことを考えた。

(2) 指導方法の工夫について

- 相手意識を明確にもって文章を推敲する活動が効果的に行えるようにするために、大崎上島町立大崎上島中学校の第2学年の生徒と、書いた物語を交流する場を設定した。

4 成果（○）と課題（●）

- 表現技法や情景描写などを書く前から項目ごとに考えたことで、推敲するポイントを示しやすく、生徒自身が表現技法の効果的な使い方などを身に付けることができた。
- 他校との交流を設定することで相手を意識して物語を書くことができて、どの時間も主体的に学んでいた。
- 生徒によって、物語の文章の量に差がでてしまった。
- 推敲の際、表現技法や情景描写などを中心にし過ぎて、語句の検討まで至らず時間数が増えてしまった。